



～ガバナー職を終えるにあたり～

第RI2660地区・1999～2000年度

ガバナー 楠 木 尚



1999年～2000年度国際ロータリー第2660地区のガバナーとして、創立40周年を記念して豊中ロータリークラブから、ノミネートされ、約1年有半の研修の期間を経て、1999年7月1日より2000年6月30日まで、カルロ・ラビッツァ会長より、国際ロータリーの地区管理役員として任命され、何とか重責を果すことができました。しかし、選ばれた時点では、豊中ロータリークラブの会員として、あまり地区についての認識もなく、ロータリーの勉強もしていなかったのが禍いして、地区運営に対するさまざまな努力と、多くの人々に支えられて、やっと務めることができました。

中でも、青木代表幹事が、よく勉強され、おおいに助けて頂き感謝しています。

そして、パストガバナーの皆様方のサゼクションや、心温まるお励ましにより、何とか恥をかかずに務めることができました。

ガバナーとして、今考えますと、反省することは多くありますが、何といても地区内84クラブを公式訪問させて頂いたことです。確かに体力的には、大変でしたが、それぞれのクラブの特色なり、奉仕の実績なりを知ることができました。結論的にはクラブは、やはり人間関係が一番大切だということも覚えました。地区をよく理解するためには、地区の各委員会に出来るだけ出席して、委員の皆様のご苦勞と委員会の委員としての専門的な知識が必要であることも知ることができました。

そして、何よりも地区におけるロータリーのエネルギーの源は、やはり84の各クラブであり、それぞれのクラブの会長・幹事を始め、地区を構成している各クラブの皆様のが、地区そのもののエネルギーの源であることを確認することが出来ました。

私の人生の終点に近い時期にロータリアンとして、このような貴重な経験をさせて頂いたことは、私の人生にも、大きな価値あるものとして、心の糧にしてまいりたいと思っています。

豊中ロータリークラブの会員の皆様を始め、豊中南・豊中大阪国際空港・豊中千里の各ロータリークラブの皆様方にも、大変お世話になりました。特に地区大会では、素晴らしい活躍を頂き、あらためまして深く感謝申し上げます。

地区内84クラブの5000名を越える皆様にも至らぬ私を心温かくお迎え頂き恐縮いたしました。この人間としての温かさ・友情・親睦・寛大・謙虚・奉仕を各ロータリアン同志の絆として体験させて頂きました。

ロータリーを広く深く自分なりに理解することにより、私は50年、人生のすべてを捧げた「生活協同組合」の運動を通して、その基本理念の重なる部分もありました。

即ち、人類愛・人間愛・すべての愛のあり方・自然との共生などその基本的哲学は、むしろ人間として社会的なあり方について、個々人の奉仕の有り方が、これからの新しい社会にむけて、貴重なものとなることを確信しています。

ほんとうにありがとうございました。